

令和7年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立弘済小学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

【 現状と課題 】

本校の児童・生徒は、児童養護施設・児童心理治療施設に入所する児童・生徒であり、生活背景や環境が複雑で虐待・ネグレクトなどの経験を抱え、幼少時より十分な大人からの愛情や家庭教育を受けてきておらず、基本的な生活習慣が十分に身につけていない状況である。よって、ほとんどの児童・生徒は基礎学力に不安があり、自己肯定感や達成感を持たずに日々を過ごしてきた児童である。

園(施設)で生活する中で衣食住が満たされ、精神的に本来の落ち着きを取り戻した児童に、基礎学力の定着と基本的な生活習慣や社会性を身につけさせるとともに、豊かな心の育成を核とした生きる力をはぐくむ教育の推進を図ることが、本校の大きな目標であると考えている。

そのためには、児童と教員との信頼関係が最も重要であり、学ぶ楽しさの実践や、綿密な児童・生徒理解によるきめ細かな生活指導など、教員との心の通った学校生活の場を作り出すことが大切であるといえる。

【安心・安全な教育の推進】

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「マナーへの意識」「規範意識」「奉仕の心」「感謝の心」「コミュニケーション力」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を毎年80%以上にする。
(1 安全・安心な教育環境の実現 1-1 問題行動への対応)

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を80%以上にする。
(2 豊かな心の育成 2-1 道徳教育の推進)

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、良いところがありますか」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を80%以上にする。
(2 豊かな心の育成 2-3 人権を尊重する教育の推進)

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っている」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を80%以上にする。
(2 豊かな心の育成 2-2 キャリア教育の充実)

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を毎年90%以上にする。
(4 誰一人取り残さない学力の向上 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進)

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を毎年90%以上にする。
(5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「あなたは、食事の大切さに関心を持ち、礼儀正しい食べ方ができていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を毎年90%以上にする。
(5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進)

【学びを支える教育環境の充実】

○弘済のぞみ園・みらい学園・保護者・関係機関との連携を、組織（広報・連携推進プロジェクトチーム）により活性化させ、園行事に対する「協力・連携」の項目や、児童・生徒に対する「道徳教育」、「学力向上」、「運動・体力」の4項目の取り組みにおいて、肯定的な回答する園職員の割合を80%以上にする。

（9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進）

2 中期目標の達成に向けた小学校の年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。95.4

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

○「アサーション」「アンガーマネジメント」「ピアサポート」などの技法を取り入れた「つながる力向上プログラム」を実践し、児童が自ら考え、判断し、それを言葉や行動で表現し、伝えることができるコミュニケーション能力を高める。

（2 豊かな心の育成 2-1 道徳教育の推進）

○「認知機能強化トレーニング（コグトレ）」を継続して実施し、児童が自分の特性を深く知ると同時に自らの弱点に気づき、それを克服する機会を設ける。そのことにより、問題行動件数を前年度より減少させ、卒業後の中学校生活への適応がより良くできるようにする。

（2 豊かな心の育成 2-1・3 道徳教育・人権教育の推進）

○年度末の校内調査において、以下の項目について「当てはまる。または、どちらかといえば、当てはまる。」と回答する児童の割合を80%以上にする。

・「気持ちの良いあいさつができていますか」（マナーへの意識）95.5

・「チャイムとともに行動ができていますか」（規範意識）100

・「困っている人がいたら手助けすることができていますか」（奉仕の心）86.4

・「感謝の気持ちをありがたいという言葉で伝えられていますか」（感謝の心）96.2

・「自分の気持ちを言葉で伝えることができていますか」（コミュニケーション力）92.4

（2 豊かな心の育成 2-1・2・3 道徳教育の推進・キャリア教育の充実・人権教育の推進）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。95.5

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均点正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。**70.5**
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。**80.8**
- 年度末の校内調査における「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。**76.9**
（4 誰一人取り残さない学力の向上 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進）
- 年度末の校内調査における「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。**80.8**
（5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進）
- 年度末の校内調査における「あなたは日頃から、病気（感染症）やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。**88.5**
（5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進）

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童・生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]**78.8**
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。
- 児童の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に努め、学校が認知したいじめ・不登校などの解決率を95%以上にする。
（6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 6-1 ICTを活用した教育の推進）

3 本年度の自己評価結果の総括（小学校）

大阪市立弘済小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価規準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>○「アサーション」「アンガーマネジメント」「ピアサポート」などの技法を取り入れた「つながる力向上プログラム」を実践し、児童が自ら考え、判断し、それを言葉や行動で表現し、伝えることができるコミュニケーション能力を高める。 (2 豊かな心の育成 2-1 道徳教育の推進)</p> <p>○「認知機能強化トレーニング(コグトレ)」を継続して実施し、児童が自分の特性を深く知ると同時に自らの弱点に気づき、それを克服する機会を設ける。そのことにより、問題行動件数を前年度より減少させ、卒業後の中学校生活への適応がより良くできるようにする。 (2 豊かな心の育成 2-1・3 道徳教育・人権教育の推進)</p> <p>○年度末の校内調査において、以下の項目について「当てはまる。または、どちらかといえば、当てはまる。」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気持ちの良いあいさつができていますか」(マナーへの意識) 95.5 ・「チャイムとともに行動ができていますか」(規範意識) 100 ・「困っている人がいたら手助けすることができていますか」(奉仕の心) 86.4 ・「感謝の気持ちをありがとうの言葉で伝えられていますか」(感謝の心) 96.2 ・「自分の気持ちを言葉で伝えることができていますか」(コミュニケーション力) 92.4 <p>(2 豊かな心の育成 2-1・2・3 道徳教育の推進・キャリア教育の充実・人権教育の推進)</p> <p>○「ポジティブ行動支援(PBS)」に関する校内研修を複数回実施し、あらゆる活動にPBS取り入れることによって、自尊感情を高め、積極的に行動できる児童を育てる。 (2 豊かな心の育成 2-1・3 道徳教育・人権教育の推進)</p>	<p>B</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況
取組内容①【2-1 道徳教育の推進】 つながる力向上 PJ 児童が自ら考え、判断し、それを言葉や行動で表現し、伝えることができるコミュニケーション能力を高めるため、「つながる力向上プログラム」を計画し実践する。	A	
指標 年度末の校内アンケートにおいて、「コミュニケーション力」「マナーへの意識」に関する項目で、肯定的な回答を80%以上にする。当該項目において、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。(R7「コミュニケーション力」90.9%、「マナーへの意識」95.5%)		
取組内容②【2-1・3 道徳教育・人権教育の推進】 学力向上 PJ 児童の実態に応じた「認知機能強化トレーニング(コグトレ)」を定期的実施し、また、認知作業トレーニングをする機会も設け、児童が自分の特性と弱点を知ることができるようにする。	B	
指標 「認知機能強化トレーニング」を週1回計画的に実施する。		
取組内容③【2-1・2・3 道徳教育の推進・キャリア教育の充実・人権教育の推進】 生活指導部 道徳の授業や日常的な生活指導を通して、あいさつやルールを守るなど道徳心や社会性の育成を意識して教育活動を進める。また、規範意識に富み、思いやりのある豊かな心をもった児童を育成するために、学校の教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の一層の充実を図る。	A	
指標 年度末の生活実態アンケートの「マナーへの意識」「規範意識」「奉仕の心」「感謝の心」「コミュニケーション力」に関する項目で肯定的な回答を80%以上にする。(R7「マナーへの意識」95.5%「規範意識」100%、「奉仕の心」86.4%、「感謝の心」95.5%)		
取組内容④【2-1・3 道徳教育・人権教育の推進】 生活指導部 児童が自尊感情を高める取り組みとして、外部講師を招いた研修など導入に向けた研修を計画的に年3回行い、ポジティブ行動支援を各活動に取り入れる。	A	
指標 ポジティブ行動支援について、独自アンケートに基づき、児童の行動の変容を成果として年度末に確認を行う。		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①(つながる力向上PJ) <ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通して、「ピアサポート」「アンガーマネジメント」「アサーション」「チームビルディング」に関する授業を2回ずつ実施した。各プログラムの実践では積極的な意見交換が行われていた。 ・運動会では、児童同士が助け合ったり支えあったりする場面が多くみられた。また、中学生との交流場面では、先輩たちの取り組む姿勢を間近に見れたことで、練習に対する姿勢の変容を感じることができている。 ・学習発表会では、個々が責任をもって役を演じたり、演奏したりできていた。また、練習期間において、多くの助け合いや相手を思った声かけができていた。 ・今期は、専門的な知識を有する講師を外部から招き、教員の指導力向上を狙いとした研修会を1学期2回、2学期1回、3学期1回実施した。 ・3学期の生活実態アンケートでは、「コミュニケーション力」「マナーへの意識」の項目において、肯定的な回答をする児童の割合がそれぞれ90.9%、95.5%だった。いずれも目標値である80%を超えている。 ・年度当初に立てた年間指導計画は、概ね計画通りに進み、指標となる項目のすべてが目標数値を上回った。

取組内容②（学力向上PJ）

- ・認知機能強化トレーニングについては、紙ベースとオンラインを併用しながら週1回計画的に行ってきたことで、毎週のCogトレ学習に、意欲的に取り組める児童が増えてきている。また、認知作業トレーニングについても、計画的に行い、児童一人一人が自分自身の特性や弱点を理解し、取り組むことができた。

取組内容③（生活指導部）

- ・1年間を通して、道徳の授業や日常的な生活指導を通して、あいさつやルールを守るなど道徳心や社会性の育成を意識して教育活動を進めてきた。また、規範意識に富み、思いやりのある豊かな心をもった児童を育成するために、学校の教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の一層の充実を図ってきた。
- ・1年間を通して、児童会を中心として、あいさつ週間や生活パワーアップ週間を設定し、あいさつの大切さや学校生活での現状の課題を児童自ら考え、小学生全員で課題達成のために取り組んだ。
- ・3学期の生活実態アンケートでは、肯定的な回答をする児童の割合が「マナーへの意識」95.5%「規範意識」100%「奉仕の心」86.4%「感謝の心」95.5%だった。

取組内容④（生活指導部）

- ・問題行動が見られた際には、本人と個別に話し合いの時間を持ち、気持ちや状況を一緒に振りかえるようにしてきた。その後は、教職員全体で日々の様子を見守りながら、改善された行動が見られたときにはすぐに声をかけて褒めたり認めたりすることを心がけてきた。本人が自分の変化に気づき、前向きな行動に繋がられるように支援している。

次年度への改善点

取組内容①

- ・各プログラムにおいて、短期間での定着が難しく、計画的に学習を行っている。しかし、転入があると、集団に対する影響が大きく、振出しに戻ってしまう時もある。そこで、少しでも生活にいかせるよう、今後も「つながる力向上プログラム」を継続して行い、計画的に取り組む必要がある。
- ・校内研修の充実のため、実施時間や研修内容、外部講師との今後の繋がり等、実施方法についても今後、検討する必要がある。
- ・「つながる力向上プログラム」のシンボルマークの普及のため、正面玄関と本館2Fに掲示をしたが、今後も様々な場所や各プログラムにおいての活用を検討していく。

取組内容②

- ・認知機能強化トレーニングについては、紙ベースとオンラインを併用しながらの運用を続ける。認知作業トレーニングも各学期に定期的に取り入れ、児童の特性や弱点を意識しながら進めていけるようにする。

取組内容③

- ・あいさつ週間や生活パワーアップ週間を来年度も継続して行い、あいさつをすることや、ルールを守ることなど道徳心や社会性の育成を意識して教育活動を進めていく。

取組内容④

- ・来年度も、教職員全体で日々の様子を見守り体制をとる。変化が見られたときには、個別に話し合いの時間を持ち、気持ちや状況を一緒に振りかえるようにしていく。

大阪市立弘済小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価規準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を70%以上にする。95.5</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均点正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。70.5</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。89.3</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。88.5 (4 誰一人取り残さない学力の向上 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。80.8 (5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは日頃から、病気（感染症）やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。88.5 (5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】 学力向上PJ 児童の学習理解度に応じた指導内容を作成し、基礎学力の向上をめざした「わかる授業」を工夫し、実践する。</p> <p>指標 年度末の生活実態アンケートにおいて、「興味と関心」、「学習意欲」、「学習習慣」、「授業理解」等の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。(R7 93.2%)</p>	A

取組内容②【4-1、言語活動・理数教育の充実】 学力向上PJ 言語活動の充実・具体的な資料を利用した理数教育の充実を柱に、新聞の活用を各教科で取り入れ、たくましく生きていくための幅広い知識の習得に努める。	B
指標 各教科や取組で新聞を活用した授業の実践と校内研修で実践事例の交流を行う。	
取組内容③【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 保健体育科 自ら進んで運動に親しみ、自己の健康・体力に興味と関心が持てるよう、学校の授業や体育的行事を積極的に活用する。	B
指標 年度末の生活実態アンケートで、運動・スポーツに対する「意欲」、「興味・関心」、「運動習慣」等の項目において、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 (R7 90.9%)	
取組内容④【5-2 健康教育・食育の推進】 健康教育部 感染症を含む病気やケガの予防対策を積極的に実施する。そして、病気やケガの実態調査と分析に基づく適切な指導を行う。また、「保健だより」や保健に関する掲示物等を活用し、病気やケガの防止、基本的な生活習慣に対する意識の向上など、啓発活動等を積極的に実施する。	A
指標 年度末の生活実態アンケートの「手洗い」「うがい」「病気やけがの予防」「食育」など基本的な生活習慣の項目において、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 (R7 98.5%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①（学力向上PJ） <ul style="list-style-type: none"> 今年度より研究教科を図画工作科に設定し「自分の思いを表現できる」授業づくりに取り組んできた。学級担任やちゃれんじ学級、支援員とも連携し児童の実態に応じた支援方法を日々工夫してきた。研究授業では計画的に全員が授業を行い、指導案検討会、討議会、スクールアドバイザーによる指導講評などから学び、授業づくりに努めた。 3学期の生活実態アンケートの結果、学力の向上に関する5項目全てにおいて、肯定的な回答が80%以上であった。これからも引き続き、学力向上を目指した授業づくりに取り組んでいく。
取組内容②（学力向上PJ） <ul style="list-style-type: none"> 児童の生活実態アンケートの結果では、「新聞を使った授業を受けることによって、そこで学んだことからそのことに対して興味や関心が広がりましたか」で68.2%の児童が肯定的な回答をしている。年間を通して全学年において各教科をはじめ平和教育や防災教育などで、新聞記事から授業にかかわるものを取り上げ、タイムリーに紹介するなどして、児童の興味関心を高める学習活動がおこなわれた。また高学年を中心に、学習のまとめとしての新聞づくりも行った。読み手を意識した文章作りや、区割りや写真・イラストの効果的な配置の仕方などを考えて取り組む児童の姿が見られた。
取組内容③（保健体育科） <ul style="list-style-type: none"> 昼休みに道具の貸し出しを行い、多くの児童が積極的にボールを使った遊びや鉄棒等を楽しむ姿が見られた。 体育の授業の初めに「体づくり運動」を行い、体力向上に努めた。 教員間で曜日ごとに運動場担当（ドッジボール担当）を決め、毎日児童と遊ぶようにした。教員が同じ遊びをするのではなく、サッカー・一輪車・バレーボールなどに分かれて児童と遊び、運動が苦手な児童が遊びを選べるよう心がけた。 3学期の生活実態アンケートでは、「意欲」77.3%「興味・関心」100%「運動習慣」95.5%の肯定的な回答があった。

取組内容④（健康教育部）

- ・1日2回以上校内巡視を行い、体調不良等の所見がみられた児童に関しては、適宜園と連携を取り、管理職に報告し対応している。
- ・自分の健康に興味を持つように、保健だよりを月に1回以上発行したり、ポスターや掲示物をタイムリーに掲示したりするように努めている。
- ・3学期の生活実態アンケートでは、「手洗い」の項目で100%、「病気やけがの予防」の項目で95.5%、「食育」の項目で100%の肯定的な回答があった。

次年度への改善点

取組内容①（学力向上PJ）

- ・学期途中での転入生への支援方法や学力の把握などについても情報共有を図り、個に応じた支援を行っていきけるようにする。

取組内容②

新聞教育のメリットは大きく、今年度の学力学習調査でも、新聞を読む児童生徒ほど各教科の正答率が高いことが報告されている。また、従来から言われているように語彙力や文章力の向上、多角的な視点を養うという点でも大きな効果が期待される。

本校でも各学年独自の取り組みにより、授業に新聞を活用した学習活動が適宜行われた多くの課題も見受けられる。1つ目に、新聞購読率の低下（50.1% R7,8 新聞通信調査会）で、教員自身が新聞を読まなくなっていること。2つ目に授業に使える記事がタイムリーにあるとは限らず、学力向上につながる継続的な取り組みとはならないこと。などが考えられる。

そこで次年度以降、本来の新聞教育の効果を高めるためには、①日常的に児童個人が新聞をじっくり読むことができる環境づくり（一人1部）②モジュールタイムの設定（読む時間の保証）③新聞購読の予算の確保等について検討していく必要がある。

取組内容③

- ・引き続き、児童の実態に応じた体育の指導・支援を行っていく。
- ・昼休みには道具の貸し出しを積極的に行い、教師も一緒に遊んでいくことで、児童が楽しく体を動かせるように支援していく。

取組内容④

- ・引き続き児童の健康観察を行っていき、異常時に早期に対応できるようにしていく。
- ・手洗いチェッカーを用いた手洗い実験を実施したことで、一人ひとり手洗いの現状を知り、丁寧に手洗いをする意識が少しずつ芽生えてきた。引き続き手洗いを丁寧にしよう指導していく。
- ・学校での活動が起因の通院はなかった。引き続き危険な場所・遊び方で遊んでいる児童がいた際には、教員全体で指導していき、怪我の発生を未然に防止していく。
- ・給食では、苦手な食べ物がある児童については、事前に量を減らすなどの対応を行い、引き続き教員全体で指導を継続していく。

大阪市立弘済小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価規準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童・生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]78.8</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。</p> <p>○児童・生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に努め、学校が認知したいじめ・不登校などの解決率を95%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">(6 教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進</p> <p style="text-align: center;">6-1 ICTを活用した教育の推進)</p> <p>○年度末に、学園職員を対象とした学校に関するアンケートを実施し、園行事に対する「協力・連携」の項目や、児童・生徒に対する「道徳教育」、「学力向上」、「運動・体力」の4項目の取り組みにおいて、肯定的な回答する園職員の割合を80%以上にする。「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの教育(指導)を行っている」の項目で、肯定的な回答をする割合を80%以上にする</p> <p style="text-align: center;">(9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【6-1 ICTを活用した教育の推進】 生活指導部</p> <p>「心の天気」や「相談連絡機能」などで児童の心の状態や日々の状況を可視化し、児童理解を深める手段とするとともに、「いじめ・不登校」などの未然防止・早期発見など迅速な対応に努める。</p>	A
<p>指標 「心の天気」を日々確認することにより、気になる児童に積極的に声掛けをする機会を設ける。</p>	
<p>取組内容②【9-1 教育コミュニティづくりの推進】 学校代表</p> <p>小、中学部の代表教員が中心となり、園の行事に積極的に協力する体制づくりに努める。児童の前日の様子や引継ぎ事項を確認するために、毎朝園の各フロアに出向く。また、問題行動等の指導に関しては、事前・事後を含めて生活指導担当教員を中心に、園との連携を密に行う。さらに、「園との連絡会」を定期的に行い、連携がさらにスムーズに行えるよう交流を深める。</p>	A
<p>指標 年度末に園職員を対象とした学校教育に関するアンケートを実施し、園行事に対する「協力」、「連携」等の項目で、肯定的な回答の割合を80%以上にする。また「園との連携」の項目で、肯定的回答を80%以上にする。さらに、管理職を含めた「園との連絡会」を少なくとも月1回以上行う。(R7 100%)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①（生活指導部）

- ・児童の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に努めた。
- ・毎週月曜日の2時間目に小中合同生指連絡会を行い、中学部の先生、学校カウンセラーとも連携をとった。

取組内容②（学校代表）

- ・児童間トラブルや問題行動だけでなく、普段の様子や学習で気になる場所など、日々の大人連絡帳や電話などでこまめに園と連絡を取り合いお互いの情報共有に努めた。また、月に1回の連絡会、ケーススタディでも情報を共有し児童理解に努めた。内容によっては園に出向いたり学校に来てもらって話をしたりして、学校と園で足並みを揃えて児童を育ててきた。
- ・年度末アンケート「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの指導を行っている」の項目で肯定的な回答が100%であった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・様々な指導や取り組みを通して、いじめの未然防止に努め、いじめの疑いのある行為や暴言も含めた暴力行為の早期発見と対応にあたっていく。引き続き、職員朝会や放課後の打ち合わせの場で児童の様子を共有していく。

取組内容②

- ・今後も園と連携しながら情報を共有し、児童理解に努めていく。